九州・沖縄の翼

株式会社ソラシドエア

2026

ソラシド レポート



Solaseed Air

BRAND PROMISE

空から笑顔の種をまく。

"Seed Smiles in the Sky."

私たちは、笑顔を届ける航空会社です。
まだ見ぬ人との出会いの笑顔、再会の喜びの笑顔。
人と人が出会い、心がうちとける時、人は自然と笑顔になります。
いつも温かく、明るく、元気な笑顔でご搭乗いただくお客さまをお迎えし、
お客さまを笑顔にしたい。
ひとつにつながるこの空のように、九州から日本へ、そして世界へ
どこまでも笑顔の種をひろげ、笑顔の花を咲かせていく。
それが、私たちソラシドエアの約束です。



















経営理念
企業経営における
目的・基本方針

安全を経営の基盤とし、サスティナブルな企業経営と地域社会への貢献を目指す
- お客様の利用しやすい運賃とハートあるサービスの提供
- 地域社会および地域経済活性化への貢献
- 少数精鋭によるたゆまぬ経営努力と好い人材の育成

安全理念
最も重視すべき
「安全」に対する考え方

- 安全は経営の基盤であり航空輸送の原点である
- 安全の確保には相互信頼と良好なコミュニケーションが必要である
- 社員は安全に対する責任を自覚し絶えず努力しなければならない

行動指針(5ヵ条)
社員として遵守すべき
行動のあり方・考え方

1. 「安全」こそ経営の基盤、徹底して守り続けます
2. 「お客様」の満足を追求し、こだわり続けます
3. 「地域」と「社会」と共に歩み続けます
4. 「持続可能な成長」に向けて、チームワークを大切に、常にチャレンジしていきます
5. 活力ある「好い会社」を創る為、明るく元気に努めます

Contents

社長メッセージ | 3
Voices of Solaseed Air members | 4
ソラシドエアの沿革・就航路線マップ | 5
ソラシドエアの価値創造プロセス・
2022-2026 年度中期経営計画 | 7
サステナビリティ経営推進 | 8

価値創造を支える事業活動

1. 安全 | 9
2. 運航 | 11
3. 整備 | 13
4. サービス | 15
5. CX 戦略 | 17
6. マーケティング | 19
7. 地元価値共創 | 21

価値創造を支える基盤

1. 人財マネジメント | 23
2. コーポレート・ガバナンス | 25
3. 役員紹介・会社概要 | 26

財務状況 | 27

**株式会社
リージョナルプラスウイングス**

企業情報 | 29
グループ会社紹介 | 30

- 本文中の「ソラシドエア」「当社」は株式会社ソラシドエアを指します。
- 当レポートでは、当社とコードシェア運航をしている全日本空輸株式会社は「ANA」、親会社である株式会社リージョナルプラスウイングスは「リージョナルプラスウイングス（RPW）」、グループ会社である株式会社 AIRDO は「AIRDO」と表記しています。その他関係先様についても敬称を略しています。

発行 : 2026 年 10 月

社長メッセージ



平素は格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

冒頭に際し、2026年7月に発生いたしました熊本地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。当社は「九州・沖縄の翼」として、被災された皆様に寄り添い、航空運送事業を通じた輸送支援をはじめ、地域に根ざした復興支援活動を今後も継続して行ってまいります。

現在、国内景気は個人消費の持ち直しなどにより緩やかに回復しているものの、物価高や為替変動の影響を受け、依然として先行き不透明な状況が続いております。

2025年度の当社のマーケティングにおいては、「ソラシドスペシャル」などの需要喚起策を展開するとともに、緻密なレベニューマネジメントを徹底することで、旅客収入の最大化に努めてまいりました。また、お客様の利便性向上とブランド発信の強化を目的に、ホームページの全面リニューアルを実施いたしました。

事業活動の一環である地域共生と環境への取り組みにおいても、着実な成果を上げております。田島山業様と連携する大分県日田市の「ソラシドの森」が、生物多様性を回復する活動（回復タイプ）として評価され、環境省・農水省・国交省による令和7年度第2回「自然共生サイト」に異業種連携として全国で初めて認定されました。

加えて、地域との共創による新たな価値創出にも挑んでおります。2024年6月に薩摩酒造様、地域商社推進機構様、鹿児島県枕崎市様および当社の4者で始動させたプロジェクトにおいては、地域の耕作放棄地を開墾し、さつま芋の栽培から商品開発まで、社員と地域が一丸となってオリジナル芋焼酎「そらより。」を2026年4月に完成させ、機内販売等を通じて、多くのお客様に地域の魅力をお届けすることができました。

こうしたマーケティング施策や地域に根ざした取り組みを成果へと結び付けた結果、2025年度の営業収入は55,337百万円（前年同期比6.3%増）、有償旅客数は2,406,904人（同4.8%増）となり、いずれも過去最高を更新いたしました。

一方、国内航空事業を取り巻く環境が厳しい状況が続く中、「国内航空のあり方に関する有識者会議」は2026年5月、その報告書の中で、国内ネットワーク維持と利用者利便の確保に向けて、ダイヤや供給量の調整、出資規制の廃止を含めた航空会社間の協業円滑化等の具体策を提言しております。

当社といたしましては、こうした新たな枠組みに迅速に対応することはもとより、安全運航の徹底と地域貢献という軸は堅持しつつ、この変革期を成長の機会と捉え、持続可能な航空ネットワークの構築とさらなる企業価値向上に挑んでまいります。

株式会社AIRDOとの共同持株会社リージョナルプラスウイングスにおいては、両社の整備機能を集約した整備受委託管理体制が3年目を迎えました。その他のオペレーション業務においても一層の協業を推進し、持続的な成長を実現する新たなステージへ進んでいます。地域をつなぐエアライングループとして、安心な旅の提供と地域社会との共創・発展に全力で取り組んでまいります。

本ソラシドレポートでは、最優先事項である安全に関する取り組みの他、サービス向上、地域振興、CX戦略、人財育成、ガバナンス体制等についてご紹介しております。ぜひ当社への理解を深めていただければ幸いです。

引き続き、皆様のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社ソラシドエア
代表取締役社長
山岐真作

Voices of
Solaseed Air members

お客様の笑顔のそばに、いつも私たちの想いがあります

ソラシドエアのブランドプロミス「空から笑顔の種をまく。」
その想いを一番近くで体現し、お客様に届けているのは社員一人ひとりです。
本レポートの冒頭にあたり、私たちが日々どのような想いでお客様に向き合い、
安全な空の旅を支えているのか、
お客様の笑顔のために心がけていることについて「社員の声」をご紹介します。



ソラシドエアの沿革・就航路線マップ

「空から笑顔の種をまく。」ソラシドエアは、安全運航を第一に、サービス品質の向上、ネットワークの充実、地域振興の活動、そしてこれらを支える人財の育成に取り組んでいます。「九州・沖縄の翼」として安全・快適・経済性を実現し、サスティナブルな成長を目指しています。

沿　革

1997 年 7 月	福岡市中央区天神において、商号パンアジア航空株式会社設立
1999 年 8 月	スカイネットアジア航空株式会社に商号変更
2000 年 9 月	本社を宮崎市橘通東に移転
2002 年 5 月	国土交通省より航空運送事業許可を取得
2002 年 8 月	**宮崎ー東京（羽田）線の運航開始**
2003 年 8 月	**熊本ー東京（羽田）線の運航開始**
2004 年 6 月	株式会社産業再生機構による支援決定
2005 年 4 月	ANA と業務提携開始
2005 年 8 月	**長崎ー東京（羽田）線の運航開始**
2006 年 2 月	ANA との共同運航（コードシェア）開始
2007 年 2 月	株式会社産業再生機構による支援終了
2007 年 3 月	国の航空機の検査等を省略できる認定事業場を取得
2007 年 9 月	**鹿児島ー東京（羽田）線の運航開始**
2009 年 2 月	**長崎ー沖縄（那覇）線※1、鹿児島ー沖縄（那覇）線の運航開始**
2009 年 11 月	**宮崎ー沖縄（那覇）線、熊本ー沖縄（那覇）線※1 の運航開始**
2010 年 2 月	オペレーションセンターを羽田空港整備場地区に開設
2010 年 10 月	**大分ー東京（羽田）線の運航開始**
2011 年 5 月	本社を宮崎市大字赤江宮崎空港内に移転
2011 年 7 月	新造機ボーイング 737-800 型機が初就航、新ブランド “Solaseed Air” を導入
2012 年 2 月	初の国内線チャーター便「宮崎ー仙台」運航
2012 年 6 月	国の機長認定・審査を省略できる指定本邦航空運送事業者の認定取得
2013 年 6 月	**神戸ー沖縄（那覇）線の運航開始**
2014 年 10 月	ボーイング 737-800 型機での全路線全便運航開始
2015 年 3 月	**名古屋（中部）ー沖縄（那覇）線、石垣ー沖縄（那覇）線の運航開始**
2015 年 7 月	オペレーションセンターを羽田空港新整備場地区に移転
2015 年 10 月	初の国際線チャーター便「宮崎ー高雄」運航
2015 年 12 月	株式会社ソラシドエアに商号変更
2018 年 10 月	**鹿児島ー名古屋（中部）線の運航開始**
2020 年 3 月	**福岡ー沖縄（那覇）線、宮崎ー名古屋（中部）線の運航開始**
2021 年 3 月	**東京（羽田）ー沖縄（那覇）線の運航開始**
2021 年 5 月	AIRDO と共同持株会社設立に関する「基本合意書」を締結
2022 年 10 月	AIRDO と共同持株会社 株式会社リージョナルプラスウイングス設立
2024 年 3 月	オペレーションセンターを羽田空港内に移転
2024 年 10 月	AIRDO と整備機能をリージョナルプラスウイングスに集約



2011 年 7 月
新ブランド “Solaseed Air” を導入


2022 年 8 月　就航 20 周年

※1　現在は運航していません。

就航路線マップ

九州・沖縄・本州間を結ぶ**「九州・沖縄の翼」**として、11 都市で 14 路線を 1 日 80 便運航しています。

〈運航路線〉

- 宮　崎 ⟷ 東　京（羽田）
- 熊　本 ⟷ 東　京（羽田）
- 長　崎 ⟷ 東　京（羽田）
- 鹿児島 ⟷ 東　京（羽田）
- 大　分 ⟷ 東　京（羽田）
- 東　京（羽田）⟷ 沖縄（那覇）
- 鹿児島 ⟷ 沖　縄（那覇）
- 宮　崎 ⟷ 沖　縄（那覇）
- 神　戸 ⟷ 沖　縄（那覇）
- 名古屋（中部）⟷ 沖　縄（那覇）
- 石　垣 ⟷ 沖　縄（那覇）
- 福　岡 ⟷ 沖　縄（那覇）
- 鹿児島 ⟷ 名古屋（中部）
- 宮　崎 ⟷ 名古屋（中部）



機材・機内インテリア

ボーイング 737-800 型機

定員：174 名（※一部機材を除く）

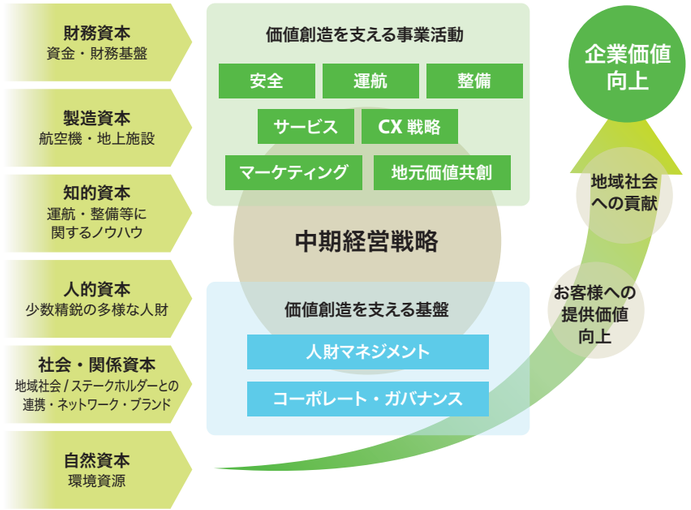




ソラシドエアの価値創造プロセス

当社は、持ちうる資源を最大限に生かし、お客様への提供価値向上、地域社会への貢献、そして企業価値向上のため、安全運航を第一に、中期経営戦略を主軸にそれぞれの事業活動を推進しています。

あらゆる事業活動を通して、価値創造を継続し、地元になくてはならないエアラインとしての成長と持続可能な社会への貢献に取り組んでまいります。

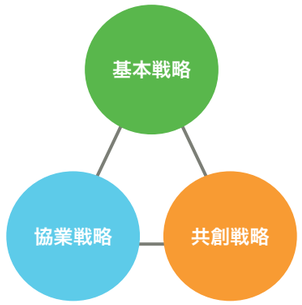


2022-2026 年度中期経営計画

経営ビジョン

『九州沖縄のフラッグキャリアになる』

～地元と共につながりを創り、地元になくてはならない「九州・沖縄の翼」になる～



3 つの戦略

基本戦略

- **路線ネットワーク：**安定的な路線ネットワークの維持を前提に、需要動向や収益性等を踏まえ九州・沖縄発着路線拡充を検討
- **機　材：**期中での増機に加え、次世代機導入による既存機更新を検討
- **トップライン向上：**マーケット拡大・顧客創造・顧客化を推進しさらなる増収を目指す
- **オペレーション：**本邦 **No.1** レベルの運航品質の達成
- **人　財：**環境変化に適応し、復活・成長を実現する社員の育成、組織の構築を目指す

共創戦略

地元と共に地元価値を創出・拡大・発展させ、地域社会と持続可能な関係を確立する
～地元から、頼り甲斐があり応援したいと思われる存在へ～

協業戦略

AIRDO との協業を加速化させ利便性・品質・生産性を向上し、増収とコスト削減につなげ経営基盤強化と持続的な成長を実現する

基盤強化策

安全の堅持

●「充実」「調和」「適合」を継続・推進していくことで、いかなる環境変化においても「安全」を最優先とする組織体制 **(SMS)** の強化・風土形成に努める

IT 推進

●着実な事業基盤や **AIRDO** との協業環境の整備

ローカルプライドの強化浸透・CX 推進

●地元とのつながりにこだわった独自価値の提供等によりブランド価値の向上を目指す

SDGs

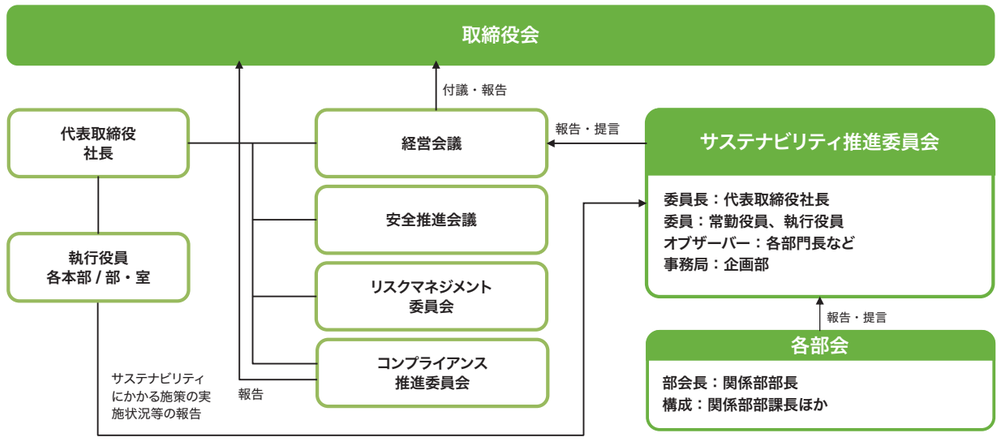
●脱炭素化推進
●地域社会発展への取り組み

サステナビリティ経営推進

当社は、「安全を経営の基盤とし、サスティナブルな企業経営と地域社会への貢献を目指す」を経営理念に掲げ、地域との関係性の一層の強化と持続的な事業運営のための環境課題への対応などに取り組み、社会価値と経済価値の両立により企業価値向上を目指す、サステナビリティ経営を推進しています。

サステナビリティ経営を推進していくにあたり、2024 年 1 月 24 日にサステナビリティ推進委員会を設置しました。また、とりわけ重要なテーマについては、部会を設置し活動方針や施策の検討を行っています。

サステナビリティ推進委員会は、経営会議の諮問機関という位置づけです。サステナビリティ経営に関する戦略・全体計画の立案、各本部・部が行うサステナビリティ関連施策の進捗状況のモニタリング、達成状況の評価などを行っています。委員会での決議・議論事項については、経営会議に報告・提言を行い、特に経営に重要な事項については、取締役会で議論を行っています。



環境への取り組み

詳細は 12 ページ

当社では、航空事業分野における脱炭素化を重要な経営課題として捉え、温室効果ガス（GHG）排出量の削減を推進しています。2030 年までに、単位輸送量当たり CO_2 排出量を 2013 年度比 16% 削減すること、そして 2050 年に航空事業におけるカーボンニュートラルを目指しています。CO_2 削減に向けて、主に以下の 4 点に取り組んでいます。

- 航空機の運航改善
- SAF の導入検討等
- 航空機技術革新の取り組み
- 空港車両や施設等の CO_2 排出量削減等

地域への取り組み

詳細は 21、22 ページ

温室効果ガス（GHG）排出量の削減だけでなく、地球環境の保全・回復は、当社にとって、重要な課題です。特に、地元である九州・沖縄の環境を向上させていくことは、九州・沖縄の翼を掲げる当社にとって、最優先の経営課題と捉えています。地元パートナーと連携して多様な取り組みを展開し、環境保全・回復に取り組むと同時に、人口減少・少子高齢化などに端を発する地域課題の解決に取り組み、社会価値と経済価値を同時に創造していきたいと考えています。


ソラシドファーム


ソラシドの森

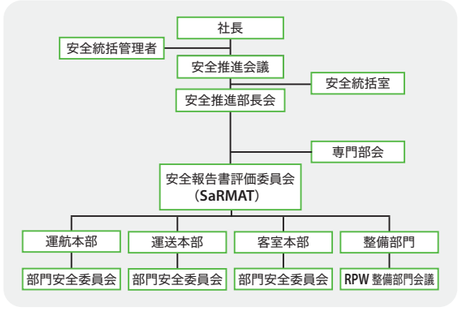
01 価値創造を支える事業活動 安 全

すべてのお客様に届ける「安全」と「信頼」

ソラシドエアでは、安全を「経営の基盤」として位置づけ、社長をはじめとする経営層から最前線の現場までが一丸となって持続可能な安全管理体制の構築と継続的な改善を続けています。また、安全管理体制をより実効性あるものとするため、職場環境を整備し、良質なコミュニケーションにより職場の心理的安全性を高め、安全文化の醸成に向けて取り組んでいます。

全社を挙げた総合的な安全管理・保安体制

当社では、航空法に基づき安全の最高責任者である「安全統括管理者」および「保安担当責任者」を選任し、全部門を横断する強固な安全・保安組織を構築しています。



● 経営トップ主導の意思決定（安全推進会議）

社長自らが議長を務める「安全推進会議」を最高審議機関として設置し、全社的な安全目標の設定や重要施策の策定を迅速に行っています。

● 部門間の強固な連携（安全推進部長会）

各部門の部室長で構成される「安全推進部長会」や各現場の会議体を通じて、策定された安全施策の実行状況を確実に把握・管理しています。

現場の声を活かす、心理的安全性と風通しの良い組織づくり

私たちは、社員一人ひとりが安全の本質を「自分事」として捉える文化を大切にしています。

● アサーション文化（より良い伝え方）の定着

業務中の気づきや懸念を、年次や役職の壁を越えて正しく、伝えやすくするためのコミュニケーションを強化しています。今年度は、具体的な「言い方・伝え方」に焦点を当て、社内イントラネットでの動画配信などを通じて全社的な定着を図っています。

● 自発的な報告を未来の安全へ

航空法および社内規程に基づく航空機の運航に関わる義務報告だけでなく、ヒヤリ・ハットなどの自発的な報告を歓迎する制度を設けています。収集した報告は「安全報告書評価委員（SaRMAT）」などが組織横断的に分析・評価し、不利益を被ることなく全社的な改善策へとつなげています。

● 安全意識アンケートによる現状把握

定期的に全社員を対象とした安全意識調査を実施しています。経営層・管理職・一般職の間で生じやすい認識のギャップや、職場の報告のしやすさ（心理的安全性）を定量的に測定し、施策のズレを修正する PDCA サイクルを回しています。





安全文化カード

客観的な視点で品質を保証する多角的な監査体制

私たちが構築している安全・保安管理システム（SMS/SeMS）が適切に機能しているか、以下の 3 層にわたる監査を厳格に受検・実施し、常に客観的な視点から安全品質の維持・向上を図っています。

● 航空局（行政）監査

運航・整備・運送・客室および安全統括室に対する年 4 回の定期監査、ならびに各就航基地への監査を受検し、国の基準への適合性を確認しています。

● 内部安全監査

独立した客観的な立場から、安全統括室 安全監査部が各部門や空港支店に対して年 1 回以上の監査を行い、規定の遵守状況やシステムの有効性を評価しています。

● ANA コードシェア監査

共同運航（コードシェア）に伴い、2 年に 1 回、国際的な安全監査基準（IOSA）に準拠した高度な監査を受検しています。



Safety⁺（プラス）フォーラム



経営層による現場コミュニケーション



非常救難脱出講習

一体感を生み出す、全員参加の教育と啓発活動

オペレーション部門だけでなく、すべての社員がそれぞれの持ち場で安全に貢献するための意識啓発と教育を行っています。

● 経営層による現場コミュニケーション

年末年始の全事業所巡回をはじめ、経営トップが日常的に各現場へ赴き、職員とのダイレクトなコミュニケーションを通じて安全体制の確認を行っています。

● 非常救難脱出講習の定期実施

万が一の緊急事態に備え、すべての社員が客室乗務員を的確にサポートし、お客様の安全確保に向けた行動をとれるよう、実際の訓練施設を用いた実践的な講習を定期的に実施しています。

● グループ全体での安全文化の醸成

グループ各社から選出されたメンバーによる「RP Safety Staff」を中心に、安全集会「Safety⁺（プラス）フォーラム」の開催や安全情報誌の発行を行い、組織の枠を越えた啓発活動を展開しています。

● プロフェッショナルとしての適正飲酒教育

すべての社員に対してアルコール教育や適正飲酒強化月間を実施しているほか、飲酒傾向を把握するスクリーニング（AUDIT）などを導入し、航空会社の一員としての意識強化を徹底しています。

ソラシドエア安全報告書	航空法第 111 条の 6（本邦航空運送事業者による安全報告書の公表）の規定に基づき、「安全報告書」を毎年公表しています。詳細は次の URL からダウンロードできます。 https://www.solaseedair.jp/corporate/safety/safty_report.pdf

02 | 価値創造を支える事業活動

運 航

安全と信頼を未来へつなぐ、確かな運航品質

ソラシドエアの笑顔と安心をお客様へ届けるために――。運航本部では、人財育成の強化と徹底した安全管理を推進しています。航空機を操縦する運航乗務員だけでなく、乗務管理・健康管理・訓練審査・技術サポートなど後方で支えるスタッフが一体となり、人・地域・未来を安全で深くつなぐ運航体制の構築に取り組んでいます。



主体性を育む人財育成と、安心して挑める組織風土

運航乗務員の育成は当社における最重要課題の一つであり、副操縦士の養成から機長昇格まで一貫した長期育成体制を確立しています。一人ひとりの経験や適性に合わせたきめ細やかな指導と技倆管理を徹底することで、確実にスキルと判断力を高めてきました。こうした育成の積み重ねにより、現在在籍している機長の半数以上が社内で機長昇格を果たし、当社の安全を牽引する中心的な存在として第一線で活躍するまでに成長しています。

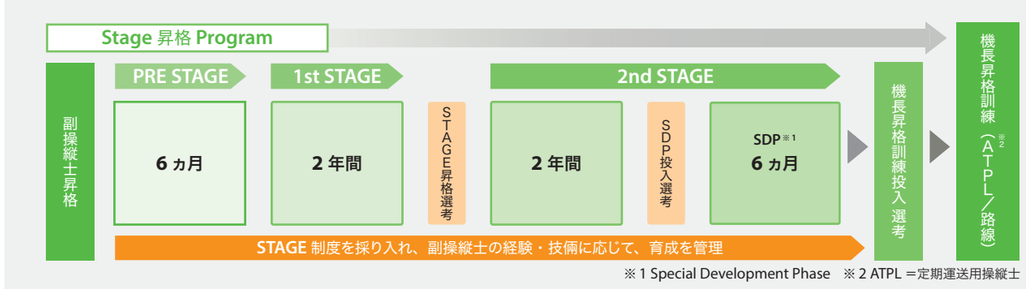
また、日々の安全運航を現場で支える運航乗務員が、心身ともに健やかに乗務へ臨める環境づくりにも力を注いでいます。その一環として、仲間同士で悩みや不安をサポートし合う「ピアサポートプログラム」を運用しています。相談を受けた同僚が温かく耳を傾けることで、一人で抱え込まず安心して業務に向き合える体制を整えました。お互いを支え合う安心感と温かい組織風土が、フライトでの最高のパフォーマンスとお客様への温かい笑顔へとつながっています。

さらに、グループ会社である AIRDO との相互連携も深化させています。両社が長年培ってきた安全運航に関する知見やノウハウを共有し合うことで、強固な信頼関係を築き上げ、グループ一体となって高品質なオペレーションの提供を目指しています。









※ 1 Special Development Phase　※ 2 ATPL ＝定期運送用操縦士

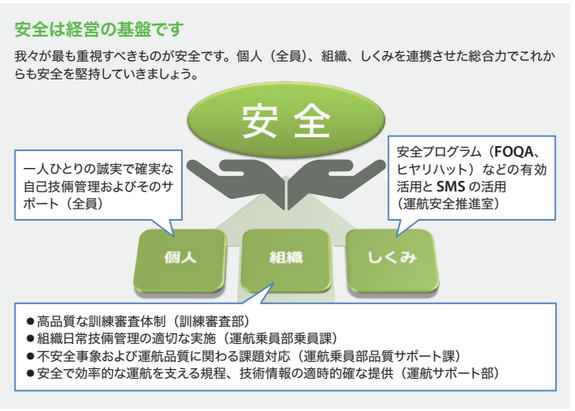
データ活用と予防安全で進化し続ける運航品質

航空機の運航における「安全」は、決して運航乗務員だけの力で成り立っているわけではありません。現場の運航乗務員を支えるあらゆるスタッフの情熱と、組織全体の総合力によって支えられています。

運航本部では、すべての運航便における飛行記録データを収集・解析する取り組みを行っており、データに基づいて日々の運航傾向や潜在的なリスクを可視化することで、不安全要素を未然に防ぐ「予防安全」活動を強力に推進しています。

さらに、実際のフライトで起こり得るさまざまな状況へ柔軟かつ的確に対処できるよう、実践的な訓練手法を導入しています。一方的な指導ではなく、運航乗務員自らが主体的に気づき、学びを深めるスタイルを大切にすることで、一人ひとりの人間性と対応力を磨いています。現場の運航乗務員と後方で支えるスタッフが一体となり、日々の「安全」を真摯に誠実に積み重ねています。





地球環境と地域の未来を守る「エコフライト」

持続可能な地域社会と地球環境の未来に貢献するため、2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた環境負荷低減策「エコフライト」を強力に推進しています。

当社では、高い安全性を維持しながら効率的なフライトを実現する高度な運航技術を活用しています。悪天候下でも精度の高い飛行を可能にすることで、就航率の向上を実現すると同時に、最適な飛行経路を選択しています。これにより、飛行時間の短縮と消費燃料の削減に努めています。

また、官民一体となった脱炭素化の取り組みにも積極的に参画しています。気象状況に応じた最適高度の選択や、きめ細やかな飛行速度コントロールなど、1 便ごとの工夫を積み重ねることで、対前年比で年間約 8,000 トン規模の CO_2 排出量削減を達成しました。今後もお客様へ安全で快適なフライトを提供することはもちろんのこと、地域に根差すエアラインとして、かけがえのない自然環境と豊かな地域の未来を、次の世代へと確実につなげていきます。







03 価値創造を支える事業活動 整 備

最高水準のオペレーション品質に向けて

基本方針

「安全堅持を最優先に、仲間との信頼関係のもと、お客様・エアライングループ・社会への約束を堅守し、一人ひとりが輝き、求められる整備部門であり続ける」を基本方針に掲げています。

株式会社リージョナルプラスウイングス（RPW）への整備機能集約

2024 年 10 月より、グループ会社である AIRDO と共に株式会社リージョナルプラスウイングス（以下、RPW）へ整備機能を集約し、整備業務の管理を委託※しています。経営資源の効率化と整備品質の向上を目的として両社の知見を融合させており、その効果は財務面にも表れています。この集約を好機とし、絶えず効果の創出に挑戦しています。

※ソラシドエアにおいて行っていた整備作業のほか、整備に関する品質管理、技術管理、生産管理等の管理業務までを一括して委託する仕組みをいいます。これに基づき RPW が、ソラシドエアに代わって整備プログラムや整備の基準を整備マニュアルとして自ら定め整備全般に関わる業務を実施しています。委託元であるソラシドエアは、RPW が行う整備作業・整備管理を包括的に委託管理（整備監理）することを通じて、航空運送事業者としての責務を果たします。



1. 役割・機能

日々の安全運航の堅持とお客様に安心してご利用いただける高品質な機材を提供し、運航ダイヤの維持と定時性を確保するため、整備作業品質・整備方式に関する方針策定や日常の運航整備作業、運航機の不具合修復、機材品質の維持向上を行っています。

また、絶対的な使命である安全運航の堅持に向け、整備従事者※および整備スタッフに対する人財育成、競争力のある効率的な整備体制を確立するための組織運営や人員配置等、中長期的な視点をもって強化、推進に努めています。





※整備従事者
整備業務は高度で専門的な知識や能力、経験を要することから、作業に携わるためには資格が必要です。入社して社内作業資格を得た後、経験を積みながら、より高度な整備業務が可能となる国家資格「一等航空運航整備士」「一等航空整備士」の取得を目指します。国家資格の取得後、社内訓練や実務経験、審査の合格により「確認主任者」資格が付与されます。また、すべての整備従事者は、知識の維持・向上を図るため、それぞれが持つ資格（確認主任者、認定作業者、領収検査員等）に応じた定期訓練を２年ごとに実施し、航空法や社内規程の確認、品質管理や領収検査に関する事項、近年発生した不具合事象の振り返り等を行っています。

2. 取り組み・業務内容

リージョナルプラスグループを牽引する存在として、グループ方針の実現に向けて盤石な事業基盤の構築と新たな価値創造に取り組んでいます。この取り組みは【地盤】【貢献】【成長】を軸に整備部門一丸となって遂行し、持続的成長につなげます。

【地盤】不断の改善、確固たる地盤のもと、魅力ある組織への追求
【貢献】リージョナルプラスグループの安全堅守、コスト管理の要となる存在へ
【成長】シナジー効果の拡大、活用、そして挑戦への準備

01【地盤】不断の改善、確固たる地盤のもと、魅力ある組織への追求

活発なコミュニケーションと改善活動を通して、人財の確保・育成・定着に向けた魅力ある組織づくりを推し進めています。また、国の制度改正に迅速に適応し、整備士の早期戦力化を図っています。

●整備士資格の共通化と業務範囲拡大
2025 年 6 月の制度改正に合わせ、機種別の整備士資格を一部共通化しました。今後は本制度を活用し、業務範囲拡大に向けた準備を進めます。

●整備士の採用競争力強化に向けた取り組みの推進
大学・専門学校との連携深化や説明会への参加に加え、夏と冬に体験型イベント（オープンカンパニー）を開催しています。実機見学、セーフティーワイヤー加工によるキーホルダー制作などを通じ、学生の皆様へ航空機整備のリアルな魅力ややりがいを発信しています。



02【貢献】リージョナルプラスグループの安全堅守、コスト管理の要となる存在へ

安全かつ安定した機材提供を重点項目とし、以下の目標を掲げて品質向上に取り組んでいます。

●安全に直結する機材不具合・作業品質不具合の防止
●機材不具合の未然防止・再発防止による運航品質の向上
●アルコール検知事象ゼロの継続
●安全意識向上の取り組みの強化



03【成長】シナジー効果の拡大、活用、そして挑戦への準備

両社が培ってきた知識・経験を継承しつつ、さらなる生産性向上に向けて DX の推進、ESG 活動に着手しています。

● AI・デジタル技術の活用による整備関連業務の生産性向上と標準化
個人の経験に依存しやすい整備業務において、機材不具合や整備作業データの収集・活用にデジタル技術を導入し、業務の効率化を推進しています。イレギュラー時にも迅速に対応がとれるよう、デジタル技術を取り入れた仕組みづくり（DX）により業務の標準化を図っています。

●持続可能な社会の実現に向けた CO_2 削減
環境配慮とコスト削減のため、2026 年 2 月に羽田空港内の移動車両として EV（電気自動車）2 台を導入しました。1 台あたり月間約 202kg の CO_2 排出量の抑制につなげています。



04 価値創造を支える事業活動 サービス

運送本部｜お客様満足度向上のために

運送本部では、さらなるお客様満足度向上のため、さまざまな施策に取り組んでいます。「空から笑顔の種をまく。」というブランドプロミスのもと、フロント部門（空港）、サポート部門が連携し、安全・安心で快適な空の旅を提供していきます。これからもお客様に寄り添い、感動や記憶に残るような空港オペレーションという顧客価値を創造します。

フロント部門（空港サービス）

ご予約をいただいた時点から、お客様をお迎えし、目的地に到着するまでの過程の中で、私たちが提供するサービスがお客様の満足度向上にどのように資するか、各部署が常にお客様目線で改善に取り組み、振り返りを行いながら品質向上に努めています。

- 羽田空港では、当社と AIRDO 共同の旅客カウンターでお客様をお迎えします。搭乗手続きや搭乗口における業務など、両社のブランドを維持しながら、今まで以上に快適性や利便性の向上を目指していきます。（羽田空港を除く各就航地空港では旅客業務などを ANA へ委託しています。）
- オンラインチェックインサービスの導入や搭乗口改札機のリニューアルに伴い、お客様により一層スムーズにお手続きいただけるようになりました。
- 羽田空港にはロータイプのカウンターとイスを備えており、お手伝いの必要なお客様のご旅行をサポートしています。





サポート部門

フロント部門およびサポート部門における活動計画の策定管理や支援、また、空港業務の安全品質管理などを行い、快適な空の旅を提供できるよう、フロント部門のバックアップ体制を整えています。

〈高い定時性を目指して〉

到着後のお客様のご予定を大切にしたいという想いから、各部が高い定時出発・到着率を目指して業務にあたっています。

- 日々の安全運航と定時性を確保するため、オペレーション統括や飛行計画の作成などの運航支援業務を行っています。
- 運航実績や各種課題に基づき運航ダイヤを改善する取り組みを実施しています。
- 社内横断的な定時性向上プロジェクト（Time Commitment Project）では、機内混雑緩和施策や、運航便の出発準備にかかる作業時間短縮の検討・改善など、定時性の維持・向上のため各部門が一体となり、さまざまなアイデアを実現させています。





AIRDO との協業促進

運送本部では、東京空港支店の旅客業務ならびにオペレーションマネジメント部の運航支援業務およびオペレーションコントロール業務において、AIRDO との協業体制を構築しています。

社員の相互兼務出向を行うことで、両社のハンドリングを相互支援できる仕組みを構築し、イレギュラー時のフォローなど安全性はじめ各種品質向上を図っています。



客室本部｜変化を恐れず、安全・品質・収益の三位一体で「ダントツ」の客室品質を追求

客室本部は、「客室乗務部」と「客室企画部」の2部体制で構成されています。客室乗務部では約 350 名の客室乗務員とスタッフが日々の安全運航を支えるための安全・サービス品質向上を追求、客室企画部は客室乗務員の安全・品質維持向上のための教育訓練の実施、機内サービスや機内販売などご搭乗のお客様にお楽しみいただける施策を戦略的に推進しています。客室本部は両部が一体となり、お客様の笑顔のために安全・サービス品質の向上と新たな価値創出に取り組んでいます。

〈安全・品質の堅持〉信頼を支える安全文化と「ダントツ」の品質追求

ソラシドエアブランドの根幹である安全文化の定着に向けて、基本業務の徹底と安全啓発活動を行っています。客室乗務員で構成される Safety Officer を中心とした安全啓蒙に加え、良質な事例を共有する Safety II の推進やリスク管理を徹底しています。

また、サポートデスク担当者を配置し、現場で発生した事象やお客様からの声の報告レポートから、あるべき「安全業務」や「ソラシドエアブランドをベースとしたサービス品質」への課題を的確に客室乗務員にフィードバックし、さらなる安全・サービス品質の向上を高次元で追求しています。



〈機内サービス・機内販売〉魅力を伝えるおもてなし

ご搭乗のお客様に快適にお過ごしいただくために、地域の魅力を活かした温かなおもてなしを提供しています。長崎県産アゴ（トビウオ）ダシと大分県産ユズの風味が広がる「アゴユズスープ」をはじめ、客室乗務員もテイスティングに参画したオリジナルコーヒー、お子様にも安心してお飲みいただけるむぎ茶（期間限定）などのドリンクサービスや、小さなお子様向けの絵本・折り紙・おもちゃなどを揃え、笑顔あふれる機内空間を創り出しています。



機内販売では、機内ドリンクとしてご好評の「ソラスープ」をはじめ、地域の特産品や社員のアイデアから生まれた魅力的な商品、九州・沖縄を感じていただけるお酒販売、九州旅行で JR をお得にご利用いただける「ＪＲ九州フリーきっぷ」などをご用意。お客様の旅の思い出とともに笑顔をお届けします。



〈おもてなし・ユニバーサル対応〉心をつなぐアナウンスと誰もが心地よい機内づくり

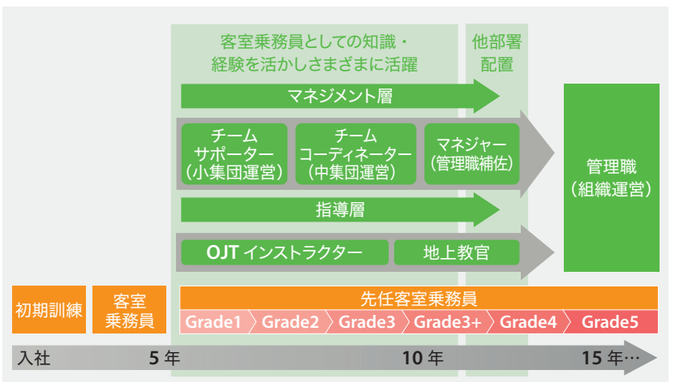
どの便にご搭乗いただいてもソラシドエアらしさを感じていただけるよう、心に届くおもてなしを徹底しています。高いアナウンススキルを持つ PA リーダーを中心に機内アナウンス品質の向上を図り、ソラシドエアブランドとして統一感を図りつつ、さらには路線限定の自己紹介アナウンスなどを通じて親しみやすいコミュニケーションを展開しています。

あわせて「合理的配慮」のさらなる推進に向けて、ユニバーサル担当者を中心にユニバーサルデザインを考慮したツールへの改善や客室乗務員を対象とした勉強会を行い、すべてのお客様が相互に尊重し合い、安心して過ごせる機内環境づくりを進めています。

〈人財育成〉自律的な成長を促す風土づくり

客室乗務員は厳密な訓練・審査を経て、安全・保安とサービスのプロフェッショナルとして歩み始めます。客室責任者である先任客室乗務員へのステップアップに加え、先任客室乗務員となった後も品質向上を追求し続けるために「先任 Grade 制度」を導入し、客室乗務員としての成長を支援しています。

また、地上での企画・サポート業務の経験や、組織マネジメントとしての役職の経験、訓練・教育業務の経験を通じて一人ひとりのキャリア観に応えるキャリアパスを設け、将来的に客室本部の主導的役割を担う人財育成を推進しています。



05 価値創造を支える事業活動 CX 戦略

お客様の声と紡ぐ感動体験とブランド価値の向上

私たちソラシドエアは、いつでも高品質なサービスと社員の「笑顔」を通じて、お客様に感動をお届けします。「すべての接点」を大切に見つめ、いただいた大切な声を次のサービスへと活かし、全社一丸となって「改善のバトン」を絶やさずつなぐことで、お客様と共に笑顔になれる未来を築いていきます。

CX 向上の取り組み

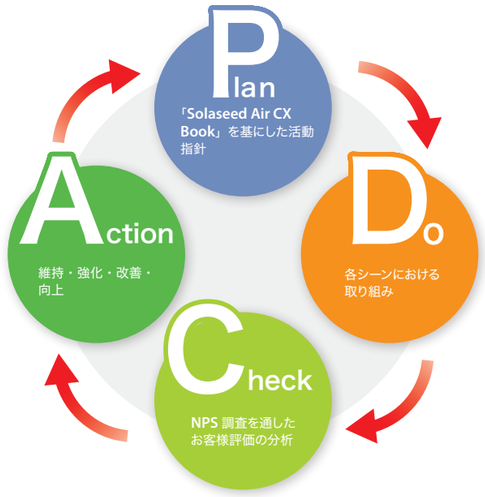
ソラシドエアが大切にするおもてなしの指針『Solaseed Air CX Book』に基づき、ご搭乗前からご搭乗後までお客様の一連の体験（13 シーン＋ 2 つの基本要素）において、お客様の満足や期待を超える CX（Customer Experience：顧客体験価値）を感じていただくように取り組んでいます。その積み重ねにより、当社のブランド価値の向上を目指します。

ソラシドエア カスタマージャーニーマップ（13 シーン +2 つの基本要素）

01	02	03	04	05	06	07	08	09 10 11	12	13
ソラシドエアとの接点	旅の計画	予約・購入手続き	出発までの時間	搭乗手続き	手荷物預け	保安検査場	搭乗ゲート～機内	機内 09 おもてなし 10 環境 11 サービス・コンテンツ	降機・手荷物受取・乗継	アフターフォロー
【基本要素①】運航時間の正確性										
【基本要素②】欠航・遅延発生時の対応										

CX 向上サイクル

私たちがご提供するサービスの品質を常に高め続けるため、「身近な人にどれだけおすすめできるか」「各場面での対応に満足いただけたか」などをお伺いする「NPS（ネットプロモータースコア）」調査を継続しています。お寄せいただいた評価を真摯に受け止め、より快適で心地よい空の旅の実現に向けて改善を重ねていきます。お客様と社員の笑顔がつながる未来を目指し、これからも全社一丸となって品質向上に取り組みます。



PDCA サイクル図

NPS® とは Net Promoter Score（ネットプロモータースコア）の略で、お客様のロイヤルティを測る指標

NPS は「身近な人へどれだけおすすめできるか」を顧客に問い、「推奨度」を測る点が大きな特徴で、自社の NPS を調査して改善に努めていけば、業績向上につながると言われています。

「ソラシドエアの利用体験を踏まえて、あなたはソラシドエアを家族や友人、同僚の方にどの程度勧めたいと思いますか。」

全く勧めない ←										→ 非常に勧めたい
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
批判者							中立者		推奨者	

❶推奨度 0 ～ 10 の評価を 3 分類する

❷「推奨者」の割合から「批判者」の割合を引いた割合が NPS スコアとなる

「Solaseed Air CX Book」



「Solaseed Air CX Book」表紙

目指すべき品質・指標

Solaseed Air CX Key Point ＋ Solaseed Air Policy

～ CS 推進～

私たちは「お客様」の満足を追求し、こだわり続けます。

お客様から寄せられる声をサービス改善につなげるとともに、日々社員が取り組む CS 向上活動の支援・マインド醸成に努めています。

サービス改善の取り組み

サービスの課題改善に向けて、お客様から寄せられた貴重なご意見・ご要望や社員の気づきをもとに、ソラシドエアらしいサービスへとかたちにすることを目指した活動です。

NPS 調査と連携し、課題解決に向けて、各部門から選出されたメンバーと共にミーティングを重ねながら解決策を検討し、CS/CX 向上を目指しています。活動内容は役員が出席する「CX 推進会議」において内容を共有し、お客様の生の声を社内へ届ける場としても活用しています。

お客様の声をかたちに

サービス改善の取り組みをホームページで紹介しています。



具体的な改善例：これまでは預入手荷物や機内持込手荷物についてまとめて記載されていましたが、各種手荷物に応じてカテゴリーに分けて掲載することで、お客様が知りたい情報をいち早く確認できるように改善しました。



預入手荷物について
ご搭乗前にお預けいただく手荷物についてご案内します。



機内持込手荷物について
機内へお持ち込みいただける手荷物についてご案内します。



制限のあるお手荷物について
お預かり、機内へのお持ち込みに制限がある手荷物についてご案内します。



破損・忘れ物について
手荷物の破損、紛失や忘れ物についてご案内します。

CS マインド醸成の取り組み

お客様視点を取り入れたサービスや改善の取り組みを評価し、年に一度表彰する CS 表彰制度を設けています。全社員・役員が参画する投票制度を取り入れることで、役職や部門、そしてグループの枠を超え、互いを称賛する文化を築き、この取り組みを通じてさらなる CS マインドの醸成を目指しています。





カスタマーハラスメント対策について

社員が安心して働く環境を目指し、社員向けにカスタマーハラスメント対応マニュアルを策定しました。お客様のご意見・ご指摘には真摯にかつ誠実に向き合い対応する一方で、カスタマーハラスメントに対しては、毅然と行動し、組織的に対応することでサービス品質の維持向上を追求していきます。

06 価値創造を支える事業活動 マーケティング

収益最大化を目指した各種マーケティング戦略の実践

● 機動的な運賃戦略とデジタル・独自価値の提供で非会員の会員化を推進し、価格競争が著しいマーケットの中でも「選ばれ続けるエアライン」へ

国内経済は緩やかな回復傾向にあるものの、為替変動や燃油価格の高騰、人手不足に伴うコスト上昇など、先行きには不透明さが残る環境が続いています。他社との価格競争が継続している中、当社では機動的な運賃設定とイールドマネジメントの高度化により収益の最適化を図るとともに、デジタル活用による予約・購入から搭乗までの利便性向上やソラシドエア独自の付加価値提供を進めていきます。量的な拡大が見込みにくい市場環境において、今後は「利用頻度の向上」や「新たな流動創出」が鍵となります。一人ひとりに寄り添う施策で非会員から会員（ロイヤルカスタマー）への転換を強力に推進し、確固たる顧客基盤の構築と持続的な収益性の向上を目指します。

1. レベニューマネジメントの強化と収益基盤の高度化	需要予測精度の向上と機動的な運賃施策を展開。 単価と搭乗率の最大化により「稼ぐ力」を強化。
2. ダイレクト販売領域の強化と会員基盤の拡大	デジタルマーケティングと連動した直販施策を推進。 非会員の会員化（ファン化）を進め、販売コスト適正化とリピート収入の拡大を図る。
3. ビジネス需要の確実な取り込みと企業向け施策の推進	ソラシド .biz を中心に法人利用の利便性を高め、旅行会社や地域の企業との連携を強化。ビジネス層の継続的な流動創出と利用定着を促進。

主な実績

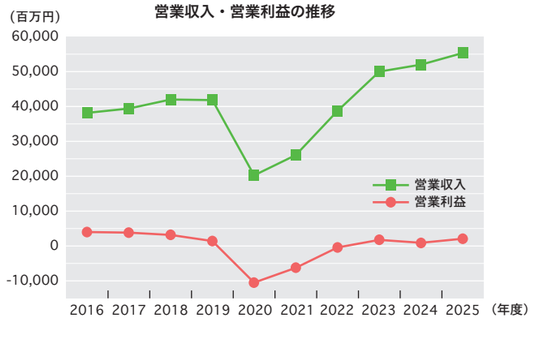
営業収入および年間旅客数の推移

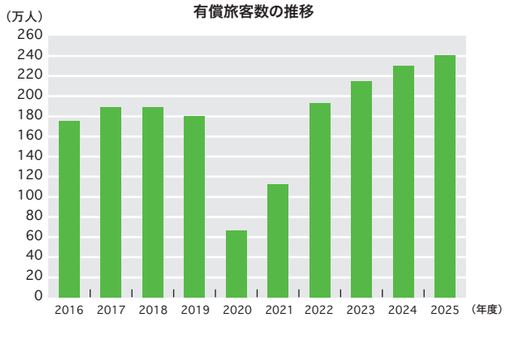
2002 年 8 月に宮崎 - 東京（羽田）線が就航して以来、当社は九州・沖縄を基盤とした路線網を着実に拡大してきました。2021 年 3 月に沖縄（那覇）- 東京（羽田）線へ就航し、現在は東京（羽田）起点に 6 路線、沖縄（那覇）起点に 6 路線※1、名古屋（中部）起点に 2 路線※2 の計 14 路線において、1 日あたり 80 便（平常時）の安定運航を行っています。

需要動向に応じたきめ細やかなレベニューマネジメントを実施することで旅客収入の最大化に努めた結果、2025 年度（2026 年 3 月期）決算におきましては、営業収入※3 が 55,337 百万円（前年同期比 6.3% 増）、有償旅客数※4 が 2,406 千人（同 4.8% 増）に達し、ともに過去最高の実績を更新しました。あわせて営業利益・純利益ともに大幅に改善し、黒字転換を果たしています。

今後におきましても、地元九州・沖縄を中心としたネットワークと付加価値の高いサービスの提供を通じ、さらなる事業基盤の強化と持続的な成長を目指します。

※1 沖縄（那覇）- 東京（羽田）を除く　※2 沖縄（那覇）- 名古屋（中部）を除く　※3 ANA 座席販売分も含めています　※4 ANA の座席販売分は含めていません。





新運賃体系の導入とレジャー・ビジネス需要の獲得

新旅客サービスシステムの導入に伴い運賃体系を刷新し、早めの予約でおトクな「アーリーソラバリュー」をはじめ、往復旅程や乗り継ぎ利便性を高めた新運賃を設定しています。あわせて、航空券と宿泊等を自由に組み合わせられる公式ダイナミックパッケージ「ソラシド＋（ぷらす）」の活用を促進し、個人旅行から出張まで多様な利用ニーズに応じた機動的な販売を展開しています。



今後の営業部の取り組み

AI を活用したレベニューマネジメントの高度化

当社では、レベニューマネジメントシステムを導入し、需要予測精度の向上に取り組んでいます。競合動向やイベント・検索データ等のビッグデータを AI 解析することで、需給に応じた適正な運賃設定をタイムリーに実施。直前需要を含む確実な販売機会の取り込みと座席単価の最適化を図り、高い搭乗率と旅客収入の最大化を両立させていきます。

「ソラシド .biz」を軸とした法人・ビジネス需要の定着

出張・ビジネス利用の獲得に向け、法人向け Web 予約サービス「ソラシド .biz」の利便性向上と活用推進に取り組んでいます。法人専用割引運賃（ソラシド biz 割）の見直しを図るとともに、契約企業への情報発信や定期的なコミュニケーションを強化します。また、パートナー企業との連携強化や企業利用における利便性を高めることで、出張需要の確実な取り込みと継続的なリピート利用を定着させていきます。

リピーター増加への取り組み

当社のマイレージプログラム「ソラシド スマイルクラブ」では、リピーター層のさらなる拡大に向け、マイルの利活用を促す多彩な施策を展開しています。

家族やグループ、友人とマイルをまとめてシェアし特典航空券に交換できる「ソラシド マイルプーリング」をはじめ、初回搭乗特典や紹介特典といった加入・利用のきっかけとなるサービスを提供。さらに、おトクなマイル数で利用いただける「路線限定！次はどこ行く？ふらっとマイルキャンペーン」など、マイルを使いたくなる機会を創出しています。加えて、当社をよくご利用いただいているお客様へ感謝を還元する「39（サンキュー）キャンペーン」を実施するなど、新規獲得からロイヤルカスタマー化まで、一人ひとりの利用スタイルに寄り添ったファン化施策を推進しています。

ソラシド スマイルクラブ







デジタルデータ基盤とパーソナライズコミュニケーションの展開

Web サイトやメールマガジン、SNS 等の各種デジタルチャネルを通じた「データ連携と個客コミュニケーション」を強化しています。デジタルマーケティングツールや統合データ基盤を活用し、Web サイトを訪れるお客様一人ひとりの属性や行動履歴に応じた最適な情報発信・パーソナライズの実現、精度向上に向け取り組んでいます。広告費の適正化を図りながら非会員層のアプローチ精度を高め、新規会員化からリピート購入へのスムーズな誘導を行っています。

07 価値創造を支える事業活動 地元価値共創

●九州・沖縄プロモーター

九州・沖縄の多彩な魅力について当社が就航各地の地元を“プロモート”する。そして一人でも多くの皆様にさまざまな形で“九州・沖縄”に触れていただく機会を増やしていく。そんな思いを込めて 2018 年に“九州・沖縄プロモーター”プロジェクトを始動しました。

2012 年から実施している地域振興・機体活用プロジェクト“空恋”や“空恋”でご一緒した自治体が主体となった首都圏での共同活動“グリーンスカイフェスタ”など、当社独自の地元価値共創活動を行っています。また、各地の共創パートナー主催のイベントへの積極的な参画なども行っています。今後も新たな生活様式や価値観の台頭に合わせてさまざまな地元価値共創活動にチャレンジしていきます。

●地域振興・機体活用プロジェクト「空恋〜空で街と恋をする〜」

（通称：空恋プロジェクト）

九州・沖縄プロモーター活動を代表する「空恋プロジェクト」は、当社が実施する機体を活用した地域振興プロジェクトです。機体に九州･沖縄の地域名やキャラクターなどを表示し、地域の PR に活用いただいています。“ご搭乗のお客様に、空の旅を通じて九州･沖縄の街と出会い、恋をしていただきたい”そんな思いから、この「空恋プロジェクト」が生まれました。機体側面には自治体の地名を表示するとともに、機内では各自治体独自の方法で PR していただきます。就航 10 周年を記念して 2012 年にスタートし、これまでに 33 の空恋機が運航しています。また、運航終了後には、より一層相互に連携しながら、観光や地域産業、地域文化などに加え、航空文化の振興に努めるべく、参画自治体と包括的連携協定を締結しています。

2026 年 4 月より、平成 28 年に発生した熊本地震から 10 年を迎えることを機に、復興への想いを込めた特別機『Go！forward くまもと号』の運航を開始しました。当機は約 2 年間、ソラシドエアの全路線で運航します。また、就航から約 1 年間、参画いただいた 6 市町村の各代表による特別機内アナウンスを実施し、熊本の復興に向けた継続的な支援をご搭乗のお客様に伝え続けます。






●「地域と共に」進める自然アグリと環境保全

ソラシドエアは、持続可能な地域社会の実現と地球環境の保全を目指し、地元と連携した環境保全・生物多様性保全活動に取り組んでいます。耕作放棄地の活用や森林保全を通じ、地域活性化と関係人口の創出を推進しています。

ソラシドエコファーム（熊本県宇城市）

株式会社イノ P と共同で耕作放棄地を開墾し、農地再生に取り組んでいます。さつま芋や栗の木を植樹したほか、二酸化炭素の吸収量が多く環境負荷軽減に寄与する「早生桐」を植樹しました。持続可能な農地の活用と環境保全・資源循環の両立を目指した地域連携型の自然アグリ事業を展開しています。




ソラシドファーム枕崎（鹿児島県枕崎市）

薩摩酒造株式会社、一般社団法人地域商社推進機構、鹿児島県枕崎市と 4 者連携で耕作放棄地を開墾し、一から育てたさつま芋で本格芋焼酎造りに取り組んでいます。社員も企画や農作業に参画し、2026 年 4 月に第一弾の本格芋焼酎「そらより。」を発売しました。耕作放棄地の再生と地場特産品の価値向上、関係人口の創出に貢献しています。




ソラシドの森（大分県日田市）

田島山業株式会社と持続可能な林業の推進と地域貢献を目的に森林整備作業に取り組んでいます。植樹後の保全管理に加え、AI 生き物判定アプリを用いた動植物調査を行い、多様な生物が共存できる森づくりを推進。これらの取り組みが評価され、2025 年 12 月に環境省・農林水産省・国土交通省による「自然共生サイト」（令和 7 年度第 2 回）に認定・登録されました。





●「地元と共に歩み、つながりを創っていく」イベント企画・運営

ソラシドエアでは、地元の皆様とともに九州・沖縄の魅力を発信するイベントとして、連携協定締結自治体等約 40 団体にご出展いただき、首都圏で各就航地の特産品の販売や観光 PR を行う「グリーンスカイフェスタ」を開催しています。7 回目の開催となる 2026 年は 11 月 28 日・29 日に二子玉川で開催を予定しており、地元の自治体や団体等と連携し、以下の 3 つのアプローチで地域課題の解決を図ります。

❶前夜祭を通じた出展者間の知見共有

11 月 27 日の前夜祭を「出展者同士のネットワーキング」とし、自治体・団体間で成功知見を共有して連携を促します。

❷「ふるさと納税ゾーン」の創設

来場者の熱量をその場で寄附につなげ、地域経済へ直接還元する仕組みを新たに構築します。

❸「食・景色・人」による観光需要の創出

特産品等の実体験を通じ来場者の愛着を深め、中長期的な観光需要の喚起と関係人口の深化に直結させます。

グリーンスカイフェスタは自治体と共に未来を切り拓くプラットフォームであり、今後も持続可能な地域社会の共創に向けて進化を続けていきます。





地域パートナーからメッセージ

〜ソラシドエアとの歩みと未来への想い〜

ソラシドエアの皆さんと活動を始めて、2023 年からスタートして今年で 4 年目になります。
最初は耕作放棄地だった場所を、みんなで草を刈り、畑をつくるところから始まりました。当時植えた早生桐も、今では見上げるほど大きく育っています。この木を見ると、僕たちの活動も一緒に育ってきたんだなと感じます。

子どもたちと苗を植えたり、収穫を楽しんだり、今年からは新たに、さまざまな鳥獣被害対策の柵を実際に見て学べる展示場にもなりました。イノ P では年間 100 回ほど研修や視察を受け入れており、今では多くの方にこの場所を見ていただいています。

僕がうれしいのは、ソラシドエアの皆さんが何度も熊本に来て、一緒に汗をかきながら、この場所を育ててくれていることです。

地域の困りごとも、人がつながれば新しい価値に変えられる。これからもソラシドエアの皆さんと、この場所をもっと面白く育てながら、ここで生まれた笑顔や学びを地域の未来へつないでいきたいと思っています。



株式会社イノ P
代表取締役
稲葉 達也 氏

01 価値創造を支える基盤 人財マネジメント

さまざまな環境変化に対応しながら「九州・沖縄の翼」ソラシドエアの経営理念を実現すべくさらなる成長を目指す。

ソラシドエアは、社員が最大の経営資産であり、社員一人ひとりの成長がなければ会社の成長もないと考えています。そのため、社員が会社で力を発揮しながら安定した生活を送ること、仕事を通じて会社や社会に貢献し成長できることを目指します。

中でも、人事制度は環境変化への柔軟な対応や新たな挑戦を通じた復活・成長につながる「成果」が重要との認識のもとに求める人財像や評価制度になっています。

引き続き、社員の働き方改革や福利厚生の充実等にも取り組みながら、社員がいきいきと働き成果を生みながら成長していくことで会社が発展し、経営理念の実現に向かう環境を作ります。

ソラシドエアの求める人財像と７つの成果

さまざまな環境変化の中で復活・成長し、理念を実現することができる人財を「求める人財像」として次の３つにまとめています。加えて、社員に求めるものとして“7 つの成果 ”があります。7 つの成果とは会社にとっての「よりよい変化」、つまり現状を経営理念の実現に近づけていくこと、そして企業価値を上げていくことを意味します。

また、7 つの成果を目指す社員への約束として、人事ポリシーを定めています。

求める人財像	●よりよい変化を起こせる人　●誰かのために行動できる人　●自分で考えやり切れる人
7 つの成果	❶達成・実行　❷業務改善　❸サービスの品質向上　❹人財育成　❺課題解決　❻創造　❼付加価値

人事ポリシー

1

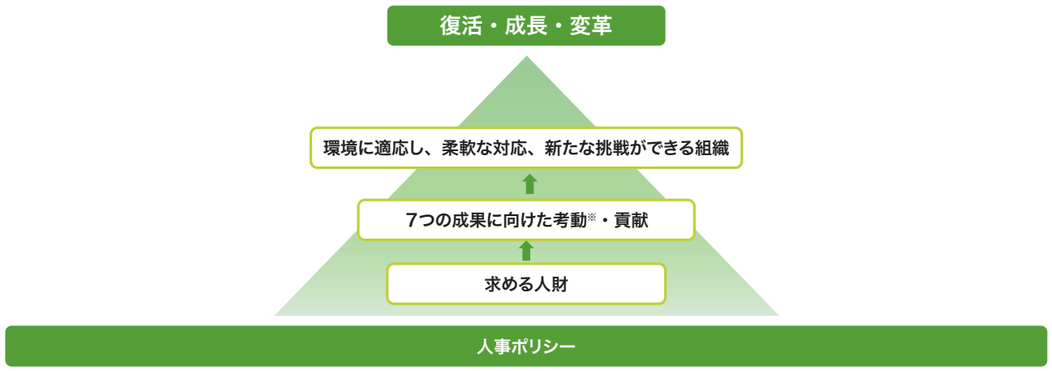
多様性を大事にします。多様性が大事にされている状態とは、誰もが意見を言えて誰もがよりよい変化の中心になっている状態です。そのため、**社員一人ひとりの多様なバックグラウンドを長所として尊重します。**

2

よりよい変化に大小はありません。社員が起こした変化がどんなに小さなものでも、よりよい変化であれば、それは成果です。そのため、**大きな変化も小さな変化も見逃しません。**

3

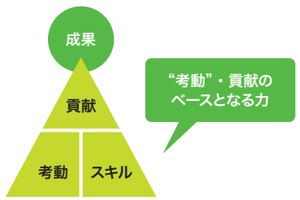
個人の成長なくして会社の成長はありません。社内外の経験を通して成果をレベルアップしていくことが成長であり、キャリアです。そのため、**年齢や在籍年数ではなく、個人の成長に応じたステージを用意します。**



※考えて動く「考動」としている理由は、実際の行動が成果を生み出し、考えて動くことで人財の成長を促進させるという考え方に基づいています。

社員の成長に向けた取り組み

人財が成果を生み出す要素を「貢献、“考動”、能力（スキル）」の 3 つに構造化しています。3 つの要素は『スキルを高めることで“考動”が変容し、より高い貢献を生む、またより高い貢献への意識が新たな“考動”への挑戦につながり、それがスキルの向上をもたらす』という相互関係にもあります。そのため社員にはとりわけ能力（スキル）の向上のために施策を実施しています。



“考動”・貢献のベースとなる等級に応じた「スキル」は、スキルアップ研修の機会を設け、社員の目指す“考動”や貢献のレベルアップを支援しています。その他、階層別の研修制度や自由に多くのことを学べる自己啓発学習コンテンツを用意し、社員の意欲的な成長を後押ししています。

また、CDP（キャリアディベロップメントプログラム）により、社員が自分自身の「成長」にフォーカスし成長のために個人の能力（スキル）を習得・向上させること、つまり成果を上げるために具体的に何を身につけなければならないか、自己実現（可能性）に向けてチャレンジしていくことについて考え、次の“考動”につなげます。

多様なリソースへのアプローチに向けた取り組み

就職活動をする学生に向けたオープンカンパニーの実施や会社説明会、学校訪問等を通じて、出身地や学歴、経験等にとらわれず安全運航を基盤として「九州・沖縄」と価値を共創できる多様な人財をリソースとして採用します。また、障がい者雇用を継続して行っています。雇用の定着支援として既存社員に対し、障害があっても、その特性を踏まえ希望や能力、適性に応じて活躍できるようにするためのサポートができる「精神・発達障害者しごとサポーター」養成講座を社内で行うなどダイバーシティ促進に向け取り組んでいます。

社員の笑顔と未来をつなぐ、安心して働きやすい職場環境づくり

世の中の変化や社員の思いに耳を傾け、安心して働き続けられる環境づくりを進めてきた結果、今年度は福利厚生の充実に力を入れる企業として「ハタラクエール 2026」の認証を取得することができました。この評価を励みとし、社員の生活基盤と心身の健康を支える取り組みを、これからも注力していきます。

❶ライフステージに寄り添う両立支援と環境整備



多様な人財がライフイベントを迎えても安心して働き続けられるよう、在宅勤務やフレックスタイム制度、オンラインツール等を積極的に活用し、柔軟な働き方を後押ししています。事由を問わず長期の休暇を取得することができるサバティカル休暇制度も活用されています。

ダイバーシティ推進の観点から、事実婚や同性パートナー等への社内制度の適用を拡大しました。さらに、今年度は新たに「子の看護等休暇」と「介護休暇」を一部有給化し、子育てやご家族のケアと仕事の両立をさらにサポートする体制を整えました。

社外での新しい経験を通じた新たな価値の創造やスキル・知恵の習得を支援する副業制度など、一人ひとりの挑戦を応援する仕組みも継続して運用しています。

❷生活基盤の安定とより柔軟な働き方を目指して

社員が安心して働けるよう、新たな生活基盤作りの制度を導入しました。従来の住宅補助等の手当を見直し、社員の暮らしに寄り添う新しい住宅補助と生活関連の手当をスタートしました。

さらに、社員のワークライフバランスの向上を目指し、時代の変化に合わせて既存制度等の見直しを一つひとつ進めています。

❸「健康経営」の推進と心身の健康保持・増進



社員一人ひとりの心身の健康と自らの力を最大限に発揮していきいきと働ける職場環境が欠かせません。こうした想いから、今年度から新たに「健康経営宣言」を掲げ、取り組みを本格的にスタートしました。

今後も社員サポートや企業型確定拠出年金制度などを通じ、将来にわたって長く安心して働き続けられるよう福利厚生の充実にも力をいれていきます。

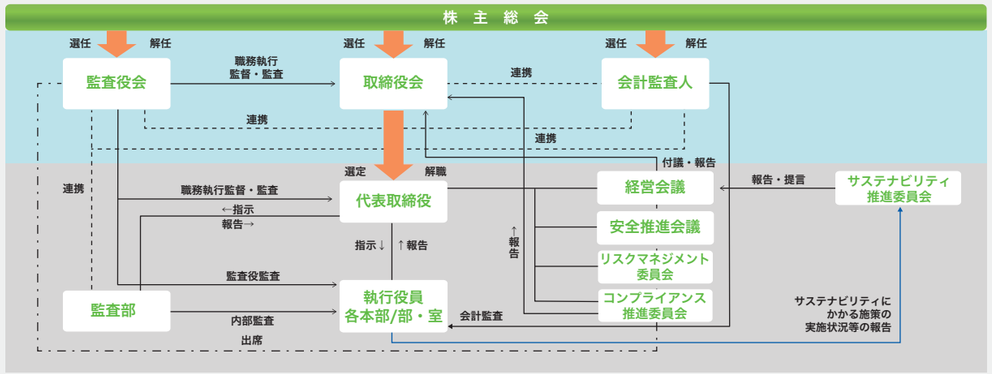
02 価値創造を支える基盤 コーポレート・ガバナンス

健全な経営の透明性を高め「攻めと守りのガバナンス」の実現に向けて

● ソラシドエアのガバナンス

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上、健全な経営の透明性の確保と意思決定の迅速化を図るための「攻めのガバナンス」と、財務報告に関わる信頼性を確保、不祥事を未然に防止し、また既発生のリスクに対処できるための「守りのガバナンス」のバランスを常に考え、有効なコーポレート・ガバナンス構造を維持・向上していく事業運営を目指しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



●**取締役会**　代表取締役社長が議長を務め、取締役 7 名（うち社外取締役 2 名）で構成されており、各取締役の職務執行の監督を行っています。また、監査役 3 名（うち社外監査役 2 名）が取締役会に出席し、取締役の職務執行に対する監査を実施しています。

●**監査役会**　常勤監査役が議長を務め、常勤監査役 1 名および非常勤監査役 2 名（いずれも社外監査役）の計 3 名で構成されており、経営全般にわたる取締役の業務執行に対する適法性・妥当性の監査を実施しています。なお、監査役会の職務を補佐するため、監査部内に補助使用人を配置しています。

●**会計監査人**　会社法に基づく会計監査を実施しています。

●**内部監査**　社長直属の監査部が監査役及び会計監査人と共に適宜連携し、業務監査・会計監査を通じて適正かつ効率的な業務実施のための評価・助言・改善提案を実施しています。

●**経営会議**　代表取締役社長が議長を務め、常勤取締役・常勤監査役の他、執行役員等のメンバーで構成されており、取締役会を補完するために経営課題を迅速に審議するほか、各部門における業務執行状況等の報告・共有を図る会議体として設置しています。

●**サステナビリティ推進委員会**　代表取締役社長が委員長を務め、常勤取締役、常勤監査役、執行役員等のメンバーで構成されており、経営理念「安全を経営の基盤とし、サスティナブルな企業経営と地域社会への貢献を目指す」を実現すべく、サステナビリティ経営における基本方針や戦略の策定、施策の立案、目標に関する進捗管理及び重要課題（マテリアリティ）の特定等について議論し、経営会議に報告しています。

●**安全推進会議**　代表取締役社長が議長を務め、安全統括管理者、常勤取締役、常勤監査役、執行役員、安全統括室長等のメンバーで構成されており、航空機運航に関わる安全の確保と推進を目的として、安全に関する基本方針を決定し、情報の共有化による意思疎通を促進することにより、安全体制の強化を図る会議体として設置しています。

●**リスクマネジメント委員会**　代表取締役社長が議長を務め、常勤取締役、常勤監査役、各本部長及び人事部長のメンバーで構成され、実際に災害、事故、犯罪、不祥事その他各種トラブル等の当社の経営に重大な影響を及ぼす緊急事態が生じた場合に、その対応を迅速に図るための意思決定を行うことなどを目的とした機関として設置しています。

●**コンプライアンス推進委員会**　コンプライアンス推進に関わる監督機関として設置しています。代表取締役社長、取締役副社長、コンプライアンス統括部門の担当役員、コンプライアンス統括部門の長、人事担当役員、人事部長などにより構成され、四半期に一度定期的に開催しています。コンプライアンスの推進、教育及び改善に関わる事項について監督を行い、適切な指導を行っています。

03 価値創造を支える基盤 役員紹介・会社概要

役員一覧（2026 年 10 月 1 日現在）

取締役



代表取締役社長
山岐 真作
安全推進会議議長、監査担当



取締役副社長
新川 新一
運航・運送・客室・整備統括 / デジタル戦略推進 / オペレーションディレクター / 人事 / 営業 / 広報担当



取締役
柿花 祥太
企画 /CX 戦略 / 営業担当



取締役
尾﨑 充孝
総務 / 財務担当



取締役
髙橋 正尚
安全統括管理者、安全統括 / 整備担当



取締役
（社外取締役）
菊池 克賴



取締役
（社外取締役）
郡司 行敏

監査役



常勤監査役
黒木 博



監査役
（社外監査役）
渡邊 友樹



監査役
（社外監査役）
椎原 聖

執行役員



常務執行役員
松本 恭典
デジタル戦略推進部長



執行役員
宮本 尊
総務担当



執行役員
藤島 浩二
運送本部長



執行役員
伊藤 智将
オペレーション統括準備室担当



執行役員
鷲 靖子
客室本部長



執行役員
高萩 雅由
人事担当

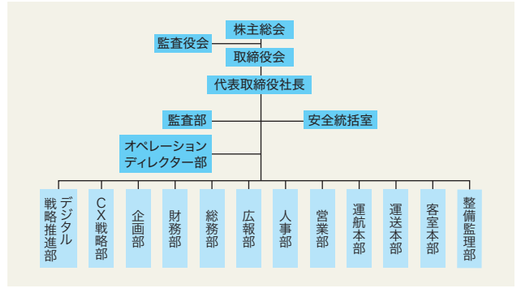


執行役員
山西 賢志
運航本部長

会社概要

商号	株式会社ソラシドエア（Solaseed Air Inc.）
設立	1997 年 7 月 3 日
所在地	本社：〒 880-0912 宮崎県宮崎市大字赤江 宮崎空港内（宮崎空港ビル 2 階）
資本金	1 億円
事業内容	定期航空運送事業等
従業員数	1,111 名（2026 年 10 月 1 日現在）

組織図



2026 年 10 月 1 日現在

財務状況

1. 2025 年度の業績概況

当事業年度の有償旅客数は、2,406,904 人（前年同期比 4.8%増）、有償座席利用率 74.6%（前年同期 76.4%）となり、旅客数は過去最高を更新しました。

これらの結果、営業収入が 55,337 百万円（前年同期比 6.3%増）となり、過去最高を更新しました。事業費は 48,338 百万円（同 4.9%増）、販売費及び一般管理費は 4,970 百万円（同 2.1%減）となり、営業利益は 2,027 百万円（同 136.0%増）となりました。

営業外収益 136 百万円及び営業外費用 923 百万円を加減した経常利益は 1,241 百万円（同 51.5%増）となりました。税引前当期純利益は 1,230 百万円（同 21.1%増）、当期純利益は 811 百万円（前年同期は当期純損失 2,390 百万円）となりました。



2. 過去 5 年間の業績推移

連続貸借対照表

（単位：百万円）

	2022 年 3 月 31 日	2023 年 3 月 31 日	2024 年 3 月 31 日	2025 年 3 月 31 日	2026 年 3 月 31 日
資産の部	43,608	43,390	51,676	51,606	64,168
流動資産	15,244	12,473	13,146	17,774	28,656
固定資産	28,364	30,917	38,530	33,832	35,511
有形固定資産	8,788	9,258	15,103	18,037	20,477
無形固定資産	370	288	390	607	950
投資その他の資産	19,205	21,370	23,036	15,187	14,083
負債の部	37,164	38,327	43,785	47,201	57,076
流動負債	9,682	9,926	15,315	12,876	18,464
固定負債	27,481	28,400	28,470	34,324	38,611
純資産の部	6,444	5,063	7,891	4,405	7,092
株主資本	4,511	5,124	6,578	4,088	4,800
資本金	100	100	100	100	100
資本剰余金	5,156	5,085	4,985	4,985	4,885
利益剰余金	△ 745	△ 60	1,493	△ 997	△ 185
評価・換算差額等	1,933	△ 61	1,312	317	2,292
負債純資産合計	43,608	43,390	51,676	51,606	64,168

連続損益計算書

（単位：百万円）

	2021 年 4 月 1 日 ～ 2022 年 3 月 31 日	2022 年 4 月 1 日 ～ 2023 年 3 月 31 日	2023 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日	2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日	2025 年 4 月 1 日 ～ 2026 年 3 月 31 日
営業収入	26,102	38,697	49,942	52,013	55,337
事業費	28,899	35,401	43,405	46,072	48,338
営業総利益	△ 2,796	3,296	6,536	5,941	6,998
販売費及び一般管理費	3,433	3,761	4,766	5,082	4,970
営業利益	△ 6,230	△ 465	1,769	859	2,027
営業外収益	1,005	652	253	500	136
営業外費用	162	493	504	540	923
経常利益	△ 5,386	△ 306	1,519	818	1,241
税引前当期純利益	△ 5,386	△ 306	1,519	1,015	1,230
法人税、住民税及び事業税	15	14	13	13	13
法人税等調整額	△ 2,462	△ 1,004	△ 48	3,392	405
当期純利益	△ 2,939	684	1,553	△ 2,390	811

連続キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	2021 年 4 月 1 日 ～ 2022 年 3 月 31 日	2022 年 4 月 1 日 ～ 2023 年 3 月 31 日	2023 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日	2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日	2025 年 4 月 1 日 ～ 2026 年 3 月 31 日
現金及び現金同等物の期首残高	12,114	7,782	6,185	4,888	11,025
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,650	△ 1,353	4,947	△ 1,618	11,637
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,145	△ 385	△ 3,576	△ 937	△ 5,431
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,463	143	△ 2,668	8,692	906
その他	―	―	―	―	600
現金及び現金同等物の期末残高	7,782	6,185	4,888	11,025	18,737

3. その他 経営指標等

	［決算年月］	2022 年 3 月	2023 年 3 月	2024 年 3 月	2025 年 3 月	2026 年 3 月
発行済株式総数	株	212,814	212,814	212,814	212,814	212,814
1 株当たり純資産額 ※1	円	18,233.40	11,588.25	24,892.57	8,494.87	21,133.58
1 株当たり配当額 ※1	円	-----	-----	-----	-----	-----
1 株当たり当期純利益金額 ※1	円	△ 14,162.79	2,749.74	6,840.28	△ 11,244.84	3,817.77
自己資本比率	%	14.7	11.6	15.2	8.5	11.0
ユニットレベニュー ※2	円	5.5	7.5	9.3	9.8	10.4
ユニットコスト ※3	円	6.8	7.6	9.0	9.6	10.0
自己資本利益率	%	△ 48.2	11.8	23.9	△ 38.8	14.1
ボーイング 737-800 型機 機材数	機	14	14	14	14	14
従業員数	人	929	949	1,049	954	921
有償旅客数	人	1,123,067	1,926,502	2,151,820	2,297,050	2,406,904
提供座席キロ ※5 ※4	千席・キロ	3,186,168	3,539,252	3,412,957	3,378,475	3,568,675
有償旅客キロ ※6	千人・キロ	1,273,769	2,141,535	2,407,156	2,580,425	2,663,126
有償座席利用率 ※7	%	40.0	60.5	70.5	76.4	74.6
運航便数 ※8	便	25,426	27,862	29,102	28,915	29,072

※1 1 株＝普通株式　※2 ユニットレベニュー＝座席キロ当たりの営業収入　※3 ユニットコスト＝座席キロ当たりの営業費用　※4 ANA への座席販売分を含まない。
※5 提供座席キロ＝提供座席の飛行した距離（キロ）の合計　※6 有償旅客キロ＝有償旅客が飛行した距離（キロ）の合計　※7 有償座席利用率＝座席数に対する有償旅客数の搭乗割合（有償旅客キロ ÷ 提供座席キロ）　※8 臨時便を含む。

株式会社リージョナルプラスウイングス

株式会社リージョナルプラスウイングスは、北海道の翼「AIRDO」と九州・沖縄の翼「ソラシドエア」の2社をグループ会社とする共同持株会社です。

企業情報

会社概要

商号	**株式会社リージョナルプラスウイングス** （英文名称 RegionalPlus Wings Corp.）
事業内容	• 株式会社AIRDO、株式会社ソラシドエアの経営管理及びこれに付帯する業務 • 株式会社AIRDO、株式会社ソラシドエアの航空機整備業務の管理の受託及びこれに附帯する業務
本社所在地	東京都大田区羽田空港三丁目3番2号 第1旅客ターミナルビル
代表者の役職・氏名	代表取締役会長　**鈴木　貴博** （現 株式会社AIRDO 代表取締役社長） 代表取締役社長　**山岐　真作** （現 株式会社ソラシドエア 代表取締役社長）
設立日	2022年10月3日
資本金	1億円
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間

役員一覧

代表取締役会長	**鈴木 貴博**
代表取締役社長	**山岐 真作**
取締役	**新川 新一**
取締役	**坂爪 浩**
取締役	**安廣 孝史**
取締役	**髙橋 正尚**
取締役	**福田 健吉**
取締役	**植田 慎一郎**
監査役	**磯根 周二**
監査役	**平尾 清之**
監査役	**黒木 博**
執行役員	**近藤 允彦**
執行役員	**宮本 尊**
執行役員	**池田 直樹**
執行役員	**松本 恭典**
執行役員	**尾﨑 充孝**
執行役員	**島崎 勝識**

経営理念

グループ経営理念　地域をつなぐエアライングループとして、安心な旅と新たな価値の提供を通じて、地域社会の発展に貢献します

安　全	安全は経営の基盤であり、絶対的使命として追求します
地　域	地域とともに成長するグループを目指し、地域社会の発展に貢献します
価値提供	グループ各社のブランドと航空ネットワークを活用し、新たな需要および価値を創出します
社会貢献	社会・環境課題へ取り組み、持続的な社会の実現に貢献します
経営基盤	グループの経営資源を最大限活用し、業務共通化や知見共有等を通じて経営基盤を強化します
社員・風土	グループ全社員が最大の財産であり、個性と多様性を認め合い、相互に信頼し磨き合える組織風土を作ります

[グループロゴ]

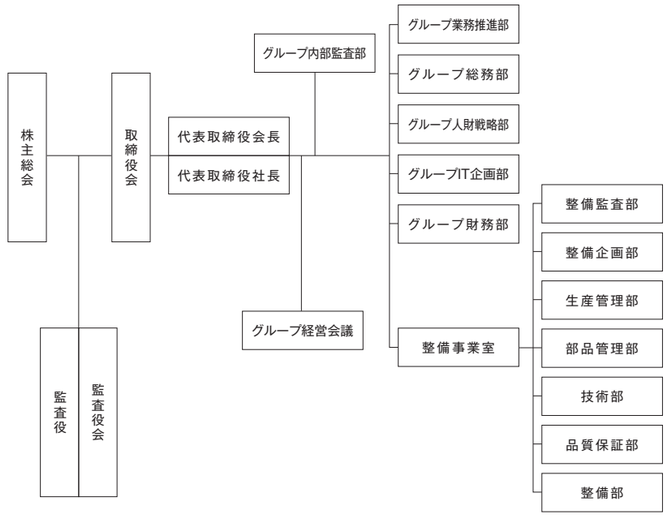
Regional Plus

Regional Plus

[ロゴコンセプト]

2つの航空会社の協業によるシナジー効果の大いなる可能性を「無限大∞」で表現したデザイン。北と南の空の軌跡がつながり、Rを囲みひろがっていく姿は、地域と共に持続的に成長・発展していくリージョナルプラスウイングスを象徴。その先に輝くプラスは、新しい価値の創出（プラス）と共に、未来へ飛躍する航空機も表現しています。カラーは、2社のブランドイメージカラーを融合し、共創のハーモニーを訴求。略称RegionalPlusを組み合わせたグループロゴの構成です。

組織図



グループ会社紹介

株式会社AIRDO



商号	**株式会社AIRDO**
本社所在地	北海道札幌市中央区北1条西2丁目9番地 オーク札幌ビルディング8階
代表者の役職・氏名	代表取締役社長　鈴木　貴博
設立年月日	1996年11月14日
資本金	1億円
従業員数	1,092名
保有機材	ボーイング767-300ER型機　4機 ボーイング737-700型機　8機

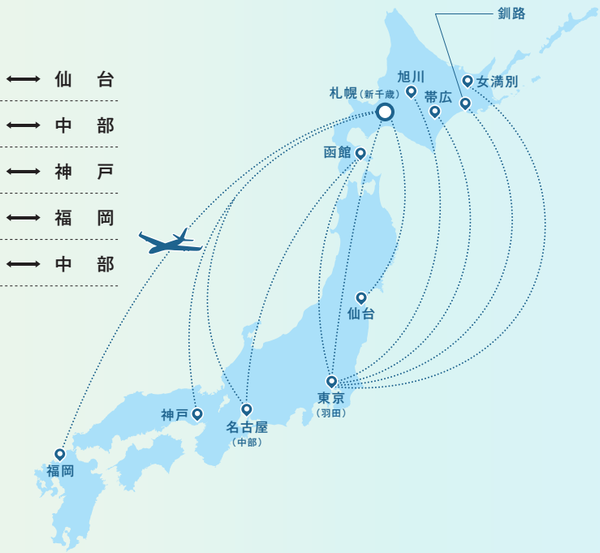
2026年7月1日現在

AIRDOは「北海道の経済活性化」を創業理念とし、本社を北海道札幌市に構え、
"北海道の翼"として北海道と本州・福岡を結ぶ11路線を運航しています。
機材は就航路線の特性に合わせ、中型機（ボーイング767-300ER型機）と小型機（ボーイング737-700型機）の
2機種・12機体制で事業展開しています。
ブランドビジョン『もっと身近に、もっと上質に、空の旅を通じて人々の心を豊かに』のもと、お客様一人ひとりに寄り添った
「あたたかいおもてなし」を大切にしながら、「身近」で「上質」な空の旅をお届けします。

11都市を結ぶ**11路線**で1日**64便**運航しています。

[運航路線]

新千歳 ⟷ 羽田	新千歳 ⟷ 仙台
旭川 ⟷ 羽田	新千歳 ⟷ 中部
函館 ⟷ 羽田	新千歳 ⟷ 神戸
女満別 ⟷ 羽田	新千歳 ⟷ 福岡
帯広 ⟷ 羽田	函館 ⟷ 中部
釧路 ⟷ 羽田	




Solaseed Air